

岩手医科大学歯学雑誌投稿の手引き (1987年4月)

1. 本会誌の内容は、総説、原著(研究報告)、症例報告、予報、トピックス、集会記録、雑報などとする。原稿はこれまで他誌に掲載しなかったものに限る。また同時に他誌に投稿してはならない。

2. 投稿は会員に限る。また編集委員会は本会の目的に添う原稿を会員外にも依頼することができる。

3. 原稿の採否はレフェリーの意見を参考にして編集委員会で決定する。委員会は著者に原稿の改変を求めることができる。掲載論文中の著者の見解については委員会は責任を負わない。

4. 原稿は和文(所定の用紙—編集委員会にて無料で配布—または横21字縦22行のA4原稿用紙を用いること)または英文(A4版または国際版216×279mmの厚手のタイプ用紙の片面に、左右の余白を十分にとってダブルスペースでタイプする)とする。編集時間の節約と紛失や火災などによる事故を防ぐため、図表や写真も含めて完全なコピーを1部添えること。ただし写真を除いて乾式複写紙によるコピーでよい。

5. 和文原稿には200語程度の英文抄録をつけ、英文原稿には800字以内の和文抄録をつける。また和文原稿には和文で、英文原稿には英文で方法、結果および結論を含んだ400字または200語程度の抄録を本文の前につける。最後に3~5語の英語によるKey wordを添える。

6. 図、表の説明文は英語とする。

7. 同一著者による同一論題に関する論文は原則として同一号には1編だけ掲載する。

8. 共著者は過多にならないよう留意し、その研究の本質的な部分に必須の者だけにしぼり、単なる協力者や技術提供者は謝辞に記すこと。

9. 原稿は原稿用紙30枚(文献を含む)以内とし(約8印刷ページ)、図表や写真は総計15枚以内とする。英文原稿もこれに準ずるが、タイプ用紙は15枚以内が適当である。

8印刷ページを越える分については特別掲載料を徴収する。

10. 原著は4印刷ページ、症例報告は2印刷ページまでは本会が費用を負担する。ただしその中の図表、写真の部分については著者負担とする。カラー写真、トレース、特殊な材料や方法を用いた場合は著者が負担する。別刷は50部まで無料とする。

ただし、発行予定ページを越えて特別掲載を希望する投稿については全額著者負担とする。

11. 予報: 独創的な研究業績で、そのプライオリティを確保するために速かに公表する必要がある場合は予報欄に掲載することができる。図表などを含めて原稿用紙4枚(1印刷ページ)とし、費用は著者負担とする。

12. トピックス: 最近学会などで話題になったものやエッセンスで気楽に会員が読めるもの。原稿用紙4枚以内にまとめて下さい。

13. 集会記録: 総会、例会、談話会などにおける講演、発表の演題あるいは抄録などを掲載する。

14. 原稿とは別に投稿票とチェック票を添えること。投稿票に必要事項を記入し、チェック票は著者みずから項目にチェックを記入して原稿の正確性を期して下さい。チェック項目不備の原稿は受理いたしません。投稿票とチェック票は事務局に請求して下さい。

15. 原稿は次の要領に従って書くこと。(既刊の本誌参照のこと)

a) 標題、著者名、所属機関名(必要ならば指導者名)を第1枚目に記し、その下に同じことを英文でまとめてタイプする。共著者が別の機関(講座など)に所属するときは、機関ごとに項目を分けて書くこと。さらに下の方に所属機関の住所を和英両文で記す。

そのほか特に脚註の必要なものも下の方に記入する。英文もこれに準ずる。学会で発表したことについては本文末尾に記入すること。

b) 和文はひらがなまじりで新かなづかいの口語文章体(…である)とし、学術用語はなるべく各学会制定のものを用いる。薬品名などは商品名ではなく一般名を用い、略号は初出時に何の略かを明記しておくこと。

c) かなづかい、送りがなについては、岩波「現代用語辞典」がわかりやすいので参照のこと。

代名詞、接続詞、副詞、助動詞などはなるべくひらがなで書くこと。或は、当たって、如何に、し得る、於いて、恐らく、及び、に拘らず、且つ、する事、する毎に、殊に、更に、然し、従って、に過ぎない、即ち、全て、総て、其等、但し、例えば、の為に、多分、就いては、出来る、~する時、と共に、

夫々、何故、～等、並びに、甚だ、殆んど、～程、その他（ほか）、その外、（その他（た）は漢字）、又は、～迄、以て、故に、～の様な…などはひらがなで書く。

d) 数量を示す場合はアラビア数字を用い（150 mg, 第3章, 第1部）、不確定数詞には漢字を用いる（二三の、二三十人、数百メートル、一部分）。数字の幅を示すときは桁数の省略を行わない（1975—1985年, 37.0—37.4°C）。

e) 単位はメートル法に準じ、記号のあとにピリオドは打たない。km, cm, mm, μ m, nm, pm; l, dl, ml, μ l; kg, g, μ g, ng, pg, …; %（重量百分率）、Vol%, mM, N/10, ppm, ppb, mEq/l; hr, min, sec; 37°C, R, mR, Ci, mCi, μ Ci…。

f) 英語の場合は固有名詞と文頭を除き頭文字は小文字で始める。動植物や微生物の学名やラテン語にはアンダーラインを引くこと（イタリックになる）。外国人名は原則として欧文を用いる。

g) 図表の挿入箇所は本文に（図3）、（表5）のように示すほかに、原稿用紙の右欄外に朱書すると。写真も図の中に入れ、写真（Plate）という項は作らない。

h) 図表は本文の最後に別の紙に書いてまとめ、写真は裏面に軟かい鉛筆で氏名、番号、天地の指示、縮少率の指示などを記入しておく。倍率は最終印刷時の拡大率を示すが、希望通りの倍率にならないこともある。写真に記入するときはタイプトーンなどのようなものを用いること。もし特に専門家に記入を希望するときにはトレーシングペーパーを貼布してその上に書き込み、写真には記入しないと。

写真の印刷時の大きさは、 $\frac{1}{2}$ 段に入れるときは横6.8cm、1段抜きで入れるときは横14cmが最大幅になる。大き目の写真を縮少した方が美しく仕上がる。縮少率が同じ写真だけを1ページにまとめた方が経済的である。

i) 文献は、引用箇所の右肩に引用順に番号をつけ（…¹⁾、…²⁻⁴⁾）、本文末に引用順にまとめること。

本文中の引用は、著者が3名以上のときは1名だけの姓と…ら、または…et al.とする。文献欄には共著者全員の名前を書く。

(1) 雑誌；略名は日本自然科学雑誌総覧（1969年）、World Medical Periodicals, Supplement 1968または1974 List of Serials (Biological Abstracts)を参照のこと。

例：野坂洋一郎、伊藤一三、岩井正行：ヒト歯肉溝上皮下および上皮付着部における微細血管構築について、岩医大歯誌、1：7—11, 1976。

Rubin, B., Trier, L., Wulff, B.H. and Rumler, B. : Selective retention of T cell precursors in bone marrow cell. Cell. Immunol. 16 : 315-326, 1975.

欧文雑誌名は最後の語を省略しないときは点をつけない (Dental Echo)。アンダーラインを引いておく（イタリックになる）。

未発表の論文は本文中に記載するにとどめ、文献欄には入れない。現在印刷中のものは入れてよい。投稿中でまだ採否不明のものは未発表のものと同じ。

(2) 単行本；

例：荒谷真平：歯の形成、押鐘篤監修：歯学生化学第1版、医歯薬出版、東京、185-211ページ、1976。

Goldman, H.M. and Cohen, D.W. : Periodontal therapy, 5th ed., Mosby Co., St. Louis. pp246-276, 1973.

翻訳書の例：Tylman, S.D. ed. ; 下総高次監訳 クラウン・ブリッジ 上巻、第1版、医歯薬出版、東京、330-360ページ、1974 : Theory and practice of crown and fixed partial prosthodontics (bridge) ; 6th ed., Mosby Co., St. Louis, 1970.

j) 原稿を送るときは、投稿票、表題ページ、和文抄録、本文、英文抄録、文献、表、図、写真、写真の説明の順に封筒に入れること。英文の場合もこれに準ずる（抄録は和英逆にする）。

16. 著者校正の場合は誤植などの訂正のみにとどめ、加筆修正は原則として認めない。

17. 原稿の内容は医の倫理に反しないものでなくてはならない。

18. 原稿の送付先

〒020 岩手県盛岡市中央通1丁目3—27 岩手医科大学歯学部内 岩手医科大学歯学雑誌編集委員会」に「原稿在中」と朱書して書留で送付すること。

次号誌（第12巻2号）について

投稿締切 昭和62年6月15日 発行予定日 昭和62年8月30日

本号誌110頁の投稿の手引きに従ってご執筆下さい。所定の原稿用紙、投稿票、チェック票

は学会事務局に備えてありますのでお申し出下さい。

岩手医科大学歯学会編集委員会